



今だからこそ 主張すべきこ

三島マリコ

震災を考える。～危機というチャンス～

まずはじめに、このような文章を読んで下さる全ての方に、私といった人間を簡単に知っていただきたい。

只今私は学生という立場であり、未来に希望を見出すことの出来ない人物である。このことは他の周囲の学生と大差はないであろう。大学生活という、「社会に出る」前のモラトリアムといってもいい時期にいる者は、現状の居心地の良さに甘んじる側面があり、自身で生計を立てるとい立場に幾分かの不安や恐れに似た逃避意識が、少なからずあるであろう。つまり、どこにでもいるような人物なのである。

私がここで主張することは、既に発信済みであり、新規性はない。しかし、ここ最近の世間の動向にもどかしさを感じてしまう。それは日本全土を巻き込んだ悲劇である、東日本大震災に関係してのことである。巷では募金活動や節電の呼びかけがなされ、日本がひとつになって乗りきろうという強い信念を私は感じている。このようなことは、今まで日本人のマイナスな面とされて見られていた全体主義的行動が結束力や団結力といった評価の対象となっていることは、明るいニュースである。ましてや、この国際化の激流に飲み込まれている我が国の、誇るべき価値観や文化が失われ続けている昨今ならなおさらだ。

しかし、視点を変えると、このような日本の現状は極度に脆弱化していると言ってもいいのではないだろうか。「日本の力を信じている」などとテレビコマーシャルが流されているのを考えると、私はそこまで追い込まれているのだろうかと思ってしまう。「信じている」という言葉には、奇跡的で信頼性に乏しい要素が感じられる。それが公然と平気で放送されている異常さに凍りつく。

私は思う。少なくとも震災後、幸運にも住む家や大切な家族が無事である人たちは、少し今までより不便と感じたり、足りないと思える暮らしをするだけで、被災者のための行動につながる事を。具体的には首都圏に住む人たちは、家が流されたりもせず、棚から物が落ちて割れたりしたに過ぎないであろう。少しずつでいいのだ。長期的な復興支援が必要なら、今から極度に生活スタイルを変えることは、結局長続きせず本末転倒である。日本が立ち直るためには、今元気な人々が旗を掲げリードすることが必要なのだ。この人達までもが意気消沈してしまっは、復興どころではなくなってしまう。

日本人の国民性がこの震災で国民自身にも意識されるようになったことは喜ばしい。西洋の、宗教が国民の価値観といった環境に日本人はない。日本人が持っている物、それは支えあう力というより、戦後復興に顕著であった雑草魂、よく言えば大和魂である。「魂」といった方が、「信じている」というより力強いではないか。

今だからこそ主張すべきこと

<http://p.booklog.jp/book/25322>

著者：三島マリコ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/misima-mariko/profile>

発行所：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/25322>

ブックログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/25322>